

*K*itami
*I*nstitute of
*T*echnology
Center for Regional Community

was

Connect ?

【巻頭言】

北海道東部の特色をさらに活かすために

—第1次産業の工学支援を強化—



社会連携推進センター長
有田 敏彦

平成29年度社会連携推進センター年報の発刊に際して、一言ご挨拶を申し上げます。

前任の鈴木聡一郎教授が学長に就任したことに伴い、新たな体制となり、北見工業大学のさらなる発展を目指す大きな節目となりました。このような中、平成30年度より地域共同研究センター時代の専任教員からは初めて後継機関である社会連携推進センター長を拝命いたしました。今後ともよろしくお願ひいたします。

これまでも本学は地域における地（知）の拠点であり続けるよう、北海道東部特にオホーツク地域の地理的特徴を活かした研究を推進するとともに、多様化する地域のニーズに応じた人材育成を行うべく機能強化を図って参りました。

しかしながら、今後の少子高齢化による労働力人口の減少や、AI、IoTなどの情報技術革新により「第4次産業革命」と呼ばれる産業構造の大きな転換期を迎えるであろうとの推測が国から発表されて、こうした時代の転換期に対応できるような優秀な技術者を育成するとともに、異なる分野の知識・技術を持ち寄り、新たな価値を創造することこそ、今後地域社会や地域産業から当センターに期待される機能であると考えております。

このことは、これまでの共同研究、受託研究などの推進のみならず、研究者交流や地域との連携協力事業を通じて、創出された研究成果や知的財産を社会に還元することによって、地域社会の発展に寄与することで、当センターひいては北見工業大学がオホーツクに存在する意義を示すことができるのではと考えております。

また、新年度、新体制においては、さらに、工学支援の幅を広げ、地域の特色をさらに活かす目的のために第1次産業の工学支援を積極的に行う「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」を立ち上げました。当分は、信頼関係の構築が主な活動になるかと思ひます。これまでの「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」で収集した情報や研究内容を基礎として、活かしていくことになるかと思ひます。第1次産業に関しては、これまでもこれからも当センターにおいて「第1次産業の工業化」というフレーズを進めて参りますが、研究等についてはオホーツク農林水産工学連携研究推進センターで、事業化商品化については社会連携推進センターが積極的に関わりながら、相談に関してはどちらもワンストップで行えるような体制としていますので、ご遠慮なくご相談ください。

新体制における社会連携推進センターは今年度からセンター長含め2名体制ですが、この2名はそれぞれ北見出身、本学同窓生である事もあり、北海道東部特にオホーツク地域の特色を活かす活動につなげていきたいと考えています。さらに学内からも一部活動を補完していただいておりますので、よりセンターの機能強化を心がけたいと思っております。

オホーツク地域においては生命体と深い関係にあり、まだまだわからないことも多く、さらには古いが進歩の止まっているものは、最新のものになる要素が詰まっていると信じて、活動していきたいと思っております。

今後とも、皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

社会連携推進センター一年報目次

【巻頭言】

北海道東部の特色をさらに活かすために ―第1次産業の工学支援を強化―

社会連携推進センター長 有田 敏彦

1. 平成29年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成29年度事業計画 1

平成29年度事業報告 2

2) 運営組織

スタッフ 5

客員教授 5

産学官連携推進員 6

産学官連携推進協力員 6

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告 9

共同研究件数の推移 10

共同研究受入一覧 11

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展 19

北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム 27

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内特許登録件数 29

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

工学連携推進型地域6次産業人材育成事業報告 30

7) 各種会議報告 35

8) 活動日誌 40

2. 付録

・センター関連規程

・技術相談申込書

1. 平成 29 年度 活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成29年度事業計画

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄付等による事業推進を図る。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を客員教授等の協力の下、推進する。

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進する。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進する。

これらの実践のため、引き続き遊休公設施設を活用した教育・研究拠点の形成を支援する。

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進する。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援する。

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進する。

特に、学生をテレワーク事業・中心商店街活動に関係づけられるかの検討を行う。

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進する。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図る。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与する。

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図る。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）等のニーズに対応できる体制を構築する。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議（全国）を活用し、センター運営に役立てるものとする。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築する。

7. その他関連する事業

1～6以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進する。

平成29年度事業報告

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附金等を通じた事業推進を図った。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進した。

○共同研究99件(内訳:道外40件、道内23件、オホーツク圏36件)

○共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援

・農工教育関係(3件)、地域振興関係(1件)、ノウハウの開示(1件)、教育支援3件、美山小学校(9/21,11/9)、札幌藻岩高校(11/27)、大正小学校(2/24)

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進した。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁(農水省、国交省、経産省、総務省等)の施策に提案することも考慮した活動を推進した。

これらの実践のため、遊休公施設を活用した教育・研究拠点の形成に支援した。

○経産省「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」自主調査継続中。工農連携研究ユニットとの連携事業

○経産省:「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート

○経産省:「地域・まちなか商業活性化支援事業」提案含めコーディネート

○農水省:産業クラスター研究会イソップ・コリドール事業推進協議体提案コーディネート

○厚労省:雇用創造協議会「実践型地域雇用創造事業」の実施指導

○国交省(開発局):連携協定に基づく官学連携活動

○農水省:農観連携ビジネス創出推進協議会

○ノーステック財団:事業への協力

○ほくどう総研事業の報告(6/15~16 宇都宮、産学連携学会)

○旧北見競馬場の活用に係る調査と整備

発掘:井上准教授(コンクリートの耐寒)、川尻助教(擁壁の挙動)、川口准教授(のり面研究の拡張)、浪越准教授(タマネギの移植)

マッチング支援:オホーツクの農業環境改善、サロマ湖の環境改善、宇宙で農業・調整中、工農事業、市民イベント

3. 教育事業(社会人、学生)

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進した。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援を行った。

○学生による地域貢献活動の推進(マネジメント工学コースを中心として)

・美山小学校、大正小学校(教育委員会土曜学校)、市町村イベントにおける科学実験教室等(科学の祭典、驚き!おもしろ科学実験)

○地域産業界との教育連携

・大学院にて講義(現役社長の講話)

・青年会議所、冬のアドベンチャー(2月例会)

○人材育成事業

・北見市「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」6名修了(社会人3、学生3)、「地域を

彩る食物語」(パラボ開催)

- 客員教授を依頼し、産学連携活動等にご協力をいただいた。
 - 各務 茂夫(東京大学教授 産学協創本部イノベーション推進部長)
 - 篁 悟(特許業務法人武和国際特許事務所 弁理士)
 - 舛井 一仁(芝綜合法律事務所 アースタック税理士法人グループ取締役 弁護士)
 - 吉田 芳春(吉田国際特許事務所 所長 弁理士)
 - 三井 良一(室蘭工業大学客員教授 元JST特許主任調査員)
- セミナー等の開催
 - ・公開講座(2件、高齢者用スマホ教室とPC教室)
- セミナー等の開催協力
 - ・釧路公立大学北海道学生研究会SCAN「合同研究発表会」(12/10)後援
 - ・北見市雇用創造協議会事業「これなら出来る！ 地産特産 奥菌流 いきいき活用のススメ」(3/6)開催協力
 - ・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」(3/10)
 - ・北見医師会「オホーツク医学大会」(3/10)
 - ・北見市技能普及講演会「地元食材活用講習会」(3/28)開催協力

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進した。

- 市町村訪問、オホーツク総合振興局内1回ずつ訪問
- 東京農業大学、帯広畜産大学との人材育成事業3大学合同セミナー(畜大:1/20~21)
オホーツク農大マルシェ(10/7~8)
- オホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに地域子供教育事業協力
- オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月1回開催、地域コアの併設
- 産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「テレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」、新設「マイクロフーズプロジェクト」へ協力
- 学生定着へ振興局内企業への広報活動により3名の定着に協力
- 雪氷談話会への協力
- 北海道中小企業家同友会との連携事業

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進した。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図った。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与した。

- 産学官交流イベント等出展状況
- センター刊行物の発刊
 - ・センター年報、センターパンフレット
- 各種新聞・雑誌等掲載(北海道新聞等)
- 同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図った。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(北見市商工観光部主催)等のニーズに対応できる体制を構築した。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議(全国)を活用し、センター運営に役立てるものとした。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築した。

- 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(事務局:北見市商工観光部)(4/24)
- 北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催(10/26)
- 社会連携推進センター運営会議 月1回(学内)
- 社会連携推進センターミーティング 週1回(学内)
- 国立大学共同研究センター長等会議(福井大学)(9/29~30)

7. その他関連する事業

1~6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進した。

- 広報備品・消耗品充実
 - ・印刷物など地域還元への推進
- 地域産業界からの知財相談への対応
- 社会人大学院教育新システム広報

2) 運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長 地球環境工学科	(兼任) 教授	鈴木聡一郎
	センター教員	教授	有田 敏彦
	センター教員	准教授	内島 典子
事務局	研究協力課 地域連携担当係長		斉藤 靖子
	事務補佐員		弦巻 香澄

◆客員教授

氏名	現職名	職務内容	期間
各務 茂夫	東京大学教授 産学連携本部 イノベーション推進部長	・産学官連携事業に対する指導・ 助言等	29.4.1～30.3.31
篁 悟	特許業務法人武和国际特許事 務所 弁理士	・知的財産権の管理・運用・技術 移転に関する支援等 ・特許等知的財産権に関する講演 等	29.4.1～30.3.31
舛井 一仁	芝綜合法律事務所 弁護士	・教員研究テーマの特許化と学内 知財の国内外へのライセンス 可能性探索 ・特許化支援に関する共同研究及 び事例解説、手法指導等	29.4.1～30.3.31
吉田 芳春	吉田国際特許事務所 所長 弁理士	・提案特許の評価・選別、知財戦 略等 ・社会貢献へのコミット、手法指 導等	29.4.1～30.3.31
三井 良一	国立大学法人室蘭工業大学 客員教授	・大学の知的財産の発掘、権利化、 活用及び管理等 ・知的財産活動の推進、指導及び 助言等 ・外部機関との知的財産に関する 連携等 ・知的財産論・地域学に関連する 講義等	29.4.1～30.3.31

◆産学官連携推進員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	小中 博好
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	池田 嘉孝

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進藤 覚弥
公益財団法人オホーツク地域振興機構 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究員	小林 秀彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	島田 尚典
北 見 市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	川西 康裕
網 走 市	観光商工部商工労働課長	田 口 徹
紋 別 市	産業部商工労働課長	高橋 秀明
置 戸 町	産業振興課長	栗生 貞幸
訓 子 府 町	農林商工課長	遠藤 琢磨
佐 呂 間 町	農務課長	平戸 光宏
津 別 町	産業振興課商工観光グループ主幹	近野 幸彦
美 幌 町	経済部商工観光グループ 商工主幹	後藤 秀人
大 空 町	産業課長	佐々木 徳幸
遠 軽 町	経済部商工観光課長	菊地 隆
斜 里 町	産業部商工観光課長	河井 謙
小 清 水 町	産業課長	細川 正彦
湧 別 町	企画財政課長	阿部 勉
興 部 町	産業振興課長	推名 徹
雄 武 町	産業振興課長	横田 和幸
滝 上 町	まちづくり推進課 まちづくり推進係主事	川原田 耕基

清里町	企画政策課まちづくりグループ 総括主査	水尾 和広
西興部村	産業建設課長	日下 忠之
北洋銀行北見中央支店	北見中央支店推進統括部長	原田 敬士
北海道銀行	北見支店副支店長	工藤 新一
北見信用金庫	地域金融支援部地域金融支援課長	松田 剛一
網走信用金庫	地域振興支援部地域振興支援課長	小林 寿明
遠軽信用金庫	経営戦略グループ営業推進部門 統括役	佐藤 祥晶
日本政策金融公庫北見支店	国民生活事業融資課長	村上 英樹
日本政策金融公庫旭川支店	中小企業事業融資課長	平井 秀和
帯広畜産大学	地域連携推進センター 人材育成マネージャー	藤倉 雄司
東京農業大学	生物産業学部 地域産業経営学科 准教授	菅原 優
日本赤十字北海道看護大学	看護薬理学領域 教授	根本 昌宏
北海道開発局網走開発建設部	地域振興対策室長	荒谷 明美
北海道新聞社北見支社	営業部課長職	村田 孝二
公益財団法人北海道科学技術 総合振興センター	研究開発支援部長	工藤 昌史
網走測量設計協会	副会長	内海 和彦

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

経済産業省北海道経済産業局	地域経済部産業技術課 産学官連携推進係長	藤江 稔
オホーツク総合振興局	産業振興部商工労働観光課長	佐々木 浩司
公益財団法人北海道中小企業総合支援 センター	オホーツク支部地域支援課長	卜部 貴志
北見工業大学生生活協同組合	専務理事	白岩 研治

※ 産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。

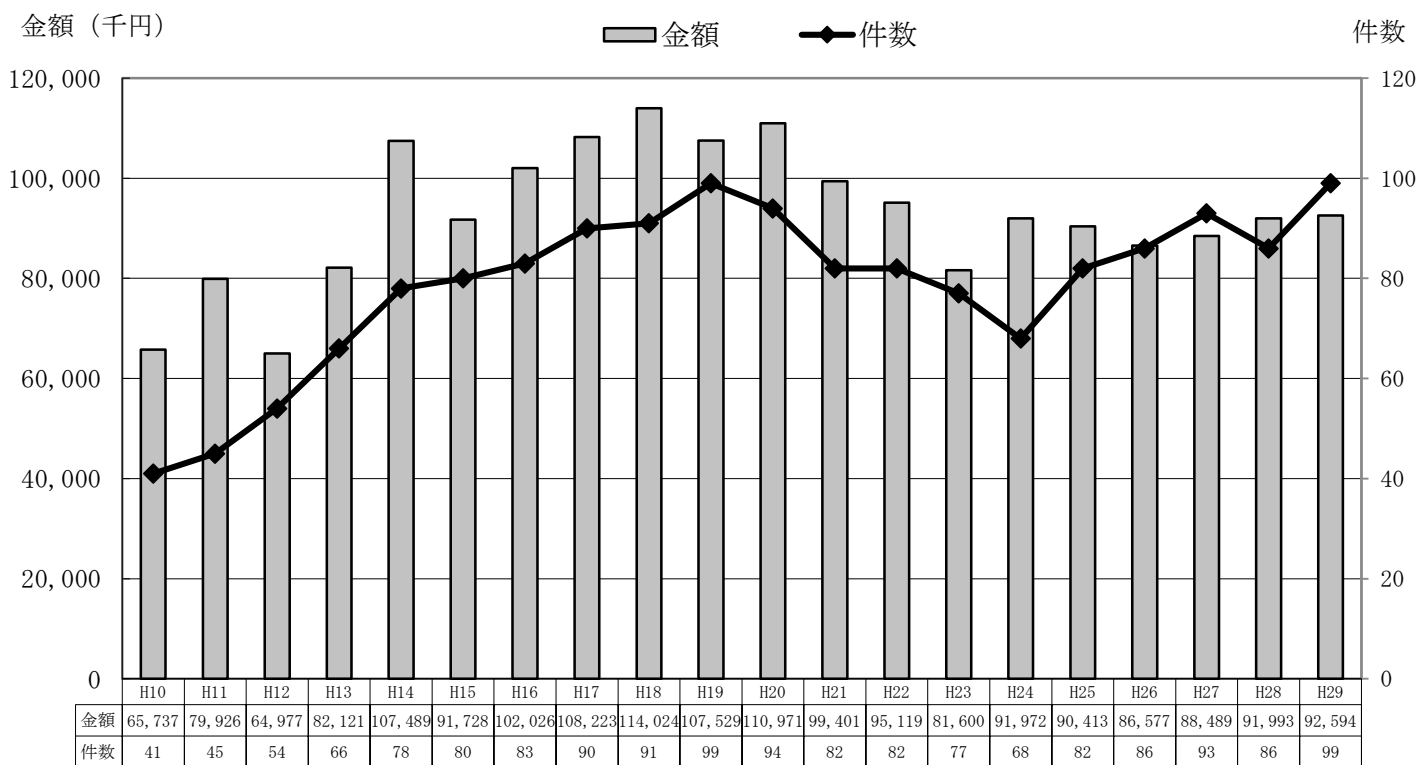
推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

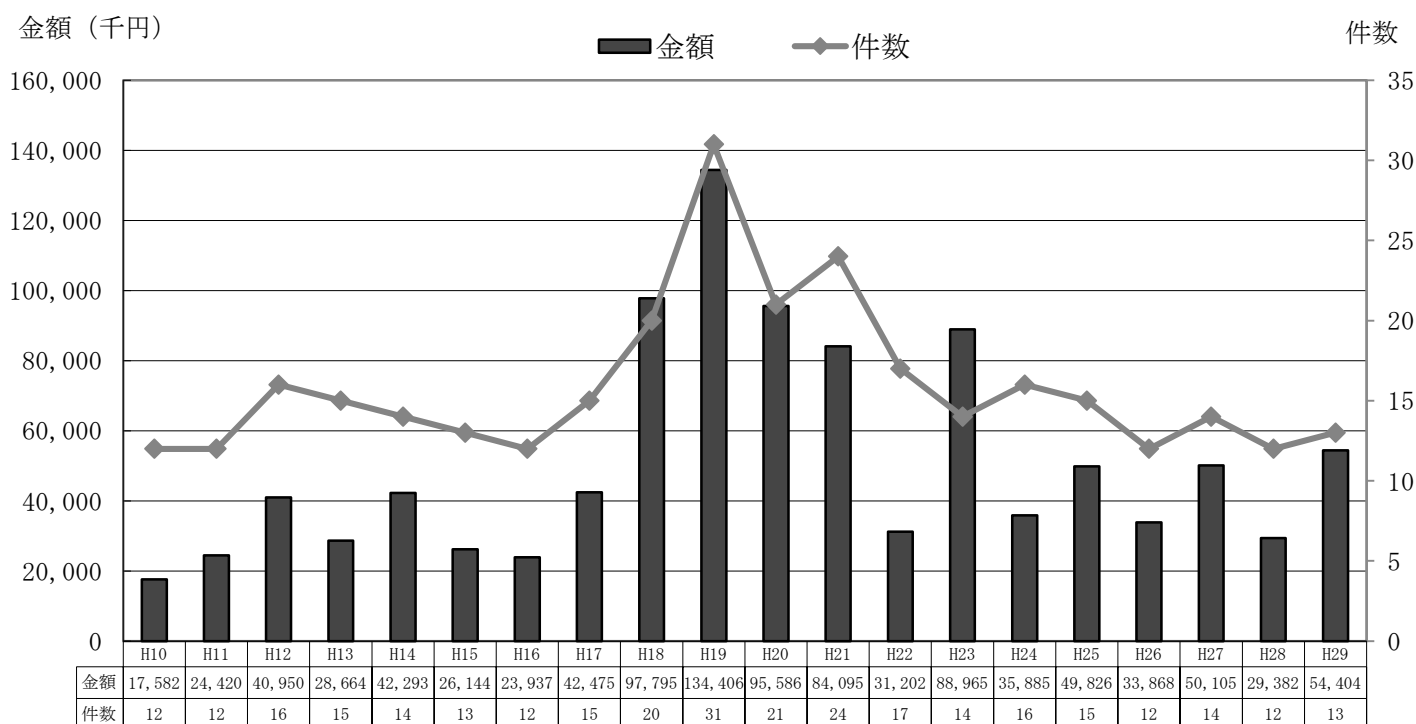
3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告（平成10年度～平成29年度）

共同研究



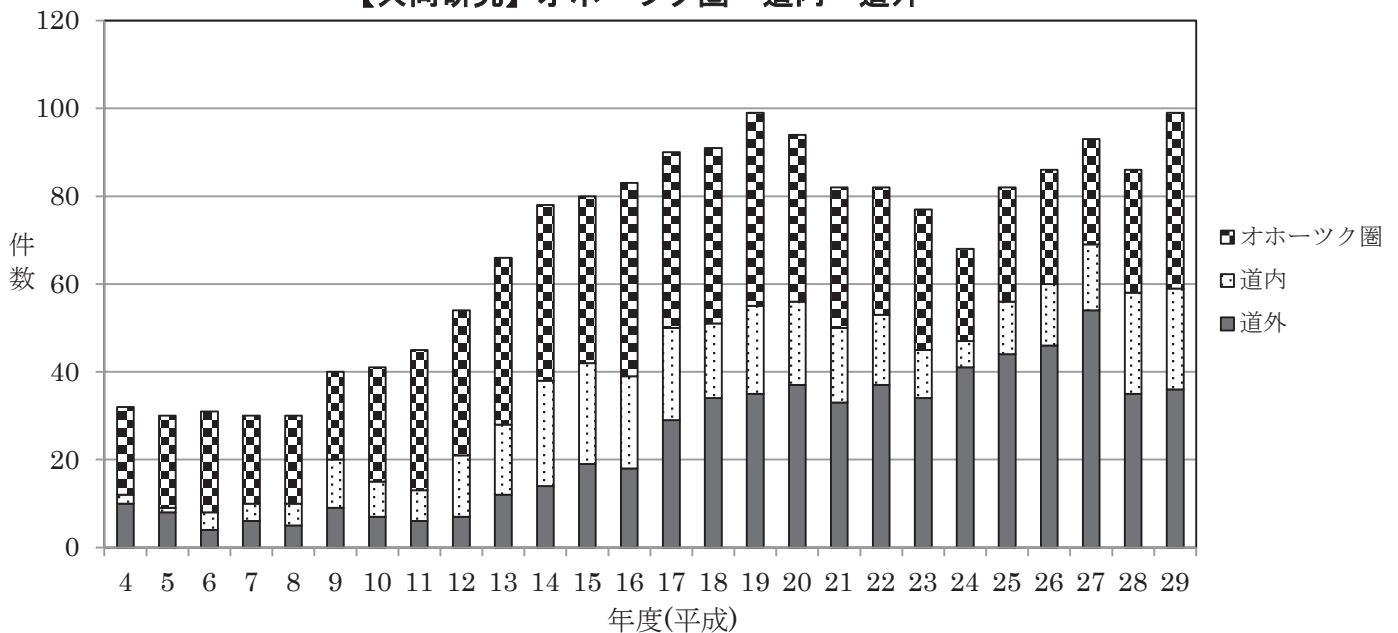
受託研究



北見工業大学 共同研究件数の推移

年度(平成)	道外	道内	オホーツク圏	総件数
4	10	2	20	32
5	8	1	21	30
6	4	4	23	31
7	6	4	20	30
8	5	5	20	30
9	9	11	20	40
10	7	8	26	41
11	6	7	32	45
12	7	14	33	54
13	12	16	38	66
14	14	24	40	78
15	19	23	38	80
16	18	21	44	83
17	29	21	40	90
18	34	17	40	91
19	35	20	44	99
20	37	19	38	94
21	33	17	32	82
22	37	16	29	82
23	34	11	32	77
24	41	6	21	68
25	44	12	26	82
26	46	14	26	86
27	54	15	24	93
28	35	23	28	86
29	40	23	36	99

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
1	榊井 文人	情報システム 工 学 科	准教授	カーリング競技の戦略シミュレ ータに関する研究	株式会社 AIS 北海 道
2	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍 上対策に関する研究	独立行政法人土木 研究所寒地土木研 究所
3	三上 修一	社 会 環 境 工 学 科	教授	社会基盤の維持・補修設計に関わ る技術支援制度の実践運用のため の共同研究	網走測量設計協会
4	大津 直史	機 器 分 析 セ ン タ ー	准教授	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株 式会社
5	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	耐寒促進剤を用いたコンクリート の冬期施工に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
6	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	路面雪氷センシング技術の高度化 に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
7	佐藤 満弘	機 械 工 学 科	准教授	先端半導体デバイスにおける応 力・転位解析とデバイスシミュレ ーションとの連携解析	学校法人五島育英 会東京都市大学
8	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	着氷モニタリングシステムの研究	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構／国立研究開 発法人土木研究所 寒地土木研究所
9	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地を対象とした冬期の取 水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会 社
10	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	結氷河川におけるアイスジャム被 害に対応する河川管理技術に関す る研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
11	吉澤 真吾	電 気 電 子 工 学 科	准教授	水中音響通信装置の性能検証	三菱電機特機シス テム株式会社
12	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	高速道路における走行快適性に関 する共同研究	株式会社高速道路 総合技術研究所
13	古瀬 裕章	マ テ リ ア ル 工 学 科	助教	希土類添加透光性アルミナ多結晶 体の創製	国立研究開発法人 物質・材料研究機 構

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
14	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究—燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社CAEデジタル開発推進部
15	渡邊 眞次	マ テ リ ア ル 工 学 科	教授	香気成分、メントール濃度等 ハッカの育種株評価分析方法の確立	株式会社 北見ハッカ研究所
16	渡邊 眞次	マ テ リ ア ル 工 学 科	教授	ハッカからの香気成分新規抽出方法の開発	株式会社 北見ハッカ研究所
17	渡邊 康玄	社 会 環 境 工 学 科	教授	河川における土砂の移動特性を考慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所／愛知工業大学総合技術研究所
18	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社 PROFICT LAB
19	川尻 峻三	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地における既設補強土壁の健全度評価手法の確立に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
20	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局 旭川開発建設部
21	楊 亮亮	機 械 工 学 科	特任助教	準天頂衛星を用いた除雪作業車両の運転支援システムの基礎研究	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
22	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響の解明に関する研究	北海道ガス株式会社北見支店
23	宮森 保紀	社 会 環 境 工 学 科	准教授	低温環境下における免震ゴムの性能評価試験	住友理工株式会社 化工品技術部
24	橋本 泰成	電 気 電 子 工 学 科	准教授	ブレインマシンインターフェースを用いた快適性定量化に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
25	浪越 毅	地 球 環 境 工 学 科	准教授	玉ねぎ育苗用の培土に使用する固化材や固化方法の検討	森産業株式会社
26	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	シリカ含有機能性繊維の評価	株式会社唐津屋

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
27	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
28	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	網走市能取污水处理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
29	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
30	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
31	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
32	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市生物調査研究	北見市
33	柴田 浩行	地 球 環 境 工 学 科	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所
34	黒河 賢二	地域未来デザイン 工 学 科	教授	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
35	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	Ni ナノ粒子へのチタン酸バリウムコーティング技術の開発	株式会社サムスン 日本研究所 横浜研究所
36	鈴木 聡一郎	冬季スポーツ科学 研究推進センター	センター長	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
37	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
38	阿部 良夫	地 球 環 境 工 学 科	教授	フレキシブル型スマートウインドウ向けエレクトロクロミック材料の反応性スパッタリング法を用いたプロセス最適化の研究	株式会社神戸製鋼所技術開発本部 応用物理研究所
39	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	海氷厚および海氷融解度推定アルゴリズムの開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
40	三上 修一	地域未来デザイン 工 学 科	教授	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本アドックス株式会社
41	田村 淳二	地 球 環 境 工 学 科	教授	パワエレ利用発電機による系統安定化技術に関する研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
42	伊藤 陽司	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	流体包有物による地下流体の熱履歴の調査	アースサイエンス株式会社
43	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	「消臭液きえ〜る」の消臭メカニズム解明の基礎検討	株式会社環境デザイン
44	鈴木 勉	工 学 部	特任教授	福島県産間伐材の鉄触媒炭化による機能性炭素の製造	株式会社 T P J 環境
45	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	南瓜の皮むき機及び収穫機に関する開発	大槻理化学株式会社
46	林田 和宏	地 球 環 境 工 学 科	准教授	P C V ガス除湿システム基礎研究その 5	株式会社ワークム北海道
47	渡邊 康玄	地域未来デザイン 工 学 科	教授	豪雨に伴う橋梁被害軽減のための計画と設計に関する検討	株式会社 構研エンジニアリング
48	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	常呂産ニンニク及び加工物の抗酸化活性化に関する研究	日本製薬工業株式会社
49	吉澤 真吾	電 気 電 子 工 学 科	准教授	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	国立研究開発法人海洋研究開発機構／三菱電機特機システム株式会社／三菱電機株式会社情報技術総合研究所
50	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	ホタテ貝殻粉末の造粒用スラリーの研究、開発	株式会社常呂町産業振興公社
51	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
52	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局
53	吉澤 真吾	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	音波伝搬シミュレーションによる音響通信性能推定技術の研究	株式会社 IHI
54	羽二生 博之	地 球 環 境 工 学 科	教授	遠赤外線空撮による小麦収穫時期判定システムの実用化	株式会社オーピス
55	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
56	渡邊 達也	地 球 環 境 工 学 科	助教	土砂災害リスクの把握を目的とした沖積錐の研究－土砂災害リスクマップの作成を目指して－	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
57	杉坂 純一郎	地域未来デザイン 工 学 科	助教	面発光レーザ向けフォトニッククリスタルについての研究	株式会社東芝 生産技術センター
58	宮森 保紀	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	橋梁維持管理におけるMEMS加速度計活用に関する研究	日本航空電子工業株式会社／国立大学法人長岡科学技術大学
59	林田 和宏	地 球 環 境 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善－白煙、臭気に関する研究－	いすゞ自動車株式会社 エンジン実験第一部
60	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
61	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
62	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
63	井上 真澄	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社
64	駒井 克昭	地 球 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における自然環境保全と維持管理手法に関する研究	株式会社西村組

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
65	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	雪氷状態モニタリング技術の開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構/株式会社セ ンテンシア
66	鈴木 聡一郎	冬季スポーツ科学 研究推進センター	センター長	スキーブーツのフットベッドの実 用設計に関する研究	ブレイン株式会社
67	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	寒冷地におけるウラル甘草の効率 的栽培方法の確立	オホーツク散歩道 有限責任事業組合
68	梅村 敦史	地 球 環 境 工 学 科	助教	小型風力発電機の可変仮想慣性制 御に関する調査研究	オホーツク新エネ ルギー開発推進機構
69	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	准教授	エゾシカ肉及びオホーツク牛肉の ブランド価値向上のための研究	北見市産学官連携 推進協議会
70	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する 研究	北見市上下水道局
71	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	雌阿寒温泉地域における温泉利用 水中の硫化水素濃度低減方法に関 する研究	足寄町
72	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	重量物搬送装置「バッテリートラ ック」の理論安定稼働限界の物理 解析モデルの研究	エクセン株式会社
73	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における地山補強土工の適 用性	日特建設株式会社
74	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	非破壊試験方法によるセメント系 固化処理土の強度推定に関する研 究開発	東亜建設工業株式会社 技術研究開発センター
75	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪地域における雲の放射影響の 研究	気象研究所
76	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	セシウム酸化タングステン表面へ のナノコーティング方法とその効 果	株式会社リコー IMS 事業本部
77	松村 昌典	地 球 環 境 工 学 科	准教授	住宅用24時間換気システムに関す る研究	ケイ・マック株式 会社
78	亀田 貴雄	地 球 環 境 工 学 科	教授	VLF 帯電波受信器を用いた日本・ア ジア域で発生する雷放電のリアル タイム監視	国立大学法人北海 道大学

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
79	中村 大	地 球 環 境 工 学 科	准教授	特殊フトンカゴに代わる寒冷地に 適したのり面保護工の開発	北見土木技術協会
80	吉澤 真吾	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	水中音響通信装置のシミュレーシ ョンソフトウェアの研究他	三菱電機特機シス テム株式会社
81	榊井 文人	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	コンテンツツーリズムによる地域 観光振興	株式会社ワイズス タッフ
82	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	低温環境におけるメタン発酵消化 液の効率処理法の開発	株式会社アクト
83	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社 PROFICT LAB
84	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	「消臭液きえ〜る」の牛舎敷料中 乳房炎原因微生物生息数への影響 評価	株式会社環境ダイ ゼン／北オホーツ ク農業協同組合
85	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	ハッカからの有効成分抽出法の開 発と評価	株式会社北見ハッ カ通商
86	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	ハッカ水蒸気蒸留残滓及び芳香蒸 留水の利活用	株式会社北見ハッ カ通商
87	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見ハッ カ通商
88	羽二生 博之	地 球 環 境 工 学 科	教授	遠赤外線空撮によるコンクリート 表面温度計測手法の改良	株式会社豊水設計
89	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における屋根型路盤を 有する林道の性能評価	鶴居村森林組合
90	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	微生物消臭剤中の微生物群衆解析	株式会社環境ダイ ゼン
91	井上 真澄	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	温水循環式エアーヒーターを用い たコンクリート給熱養生システム の構築	エクセン株式会社
92	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	准教授	エゾシカの利活用および地産地消 を目的としたレシピ開発	北見工業大学生活 協同組合

平成 29 年度 共同研究受入一覧

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		
93	酒井 大輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	透明海洋生物の光学特性の役割解 明に関する研究	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所／国立大学法人 琉球大学／学校法 人東海大学
94	杉坂 純一郎	地域未来デザイン 工 学 科	助教	レーザ向けフォトニック結晶につ いての研究	株式会社東芝 生産技術センター 光技術研究部
95	宮崎 健輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	水熱処理木材を用いたプラスチック 複合材料に関する研究	株式会社北斗興業
96	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	平成 29 年度 注意喚起溝工法に関 する共同研究	株式会社高速道路 総合技術研究所／ 鹿島道路株式会社
97	阿部 良夫	地 球 環 境 工 学 科	教授	寒冷地に適したエレクトロクロミ ック・スマートウィンドウに関す る研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
98	宮森 保紀	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	低温環境下における免震ゴム支承 の力学特性	住友理工株式会社 免制振デバイス技 術部／日本鑄造株 式会社
99	富山 和也	地域未来デザイン 工 学 科	助教	モバイルプロフィロメータを用い た冬期路面モニタリングに関する 基礎的研究	株式会社中神土木 設計事務所

※一覧における「所属」及び「職名」表記は契約時点のものです。

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展

No	開催日	イベント名	開催場所
1	7/20(木)	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
2	7/20(木)	共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017 ～IoT/AI 技術で切り拓く農業改革等への糸口～	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
3	8/31(木) ～9/1(金)	イノベーション・ジャパン 2017ー大学見本市ー	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
4	9/5(火)	Matching HUB Otaru 2017	北海道小樽市 (グランドパーク小樽)
5	9/7(木) ～8(金)	北洋銀行・帯広信用金庫 インフォメーション バザール in Tokyo 2017	東京都豊島区 (池袋サンシャインシティ)
6	10/4(水) ～6(金)	アグリビジネス創出フェア 2017	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
7	10/11(水) ～13(金)	BioJapan 2017	神奈川県横浜市 (パシフィコ横浜)
8	10/11(水) ～13(金)	公益社団法人 自動車技術会 2017 年秋季大会 「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」	大阪府大阪市 (グランキューブ大阪)
9	11/8(水) ～11(土)	メッセナゴヤ 2017	愛知県名古屋市 (ポートメッセなごや)
10	11/9(木) ～10(金)	ビジネス EXPO 「第 31 回北海道技術・ビジネス交流会」	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
11	11/16(木)	JST 新技術説明会 (ライフサイエンス系)	東京都千代田区 (JST 東京本部別館)
12	11/17(金) ～18(土)	2017 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido ー北海道の食と農の明日へー	北海道札幌市 (サッポロファクトリー)
13	12/7(木)	JST 新技術説明会 (ものづくり系)	東京都千代田区 (JST 東京本部別館)
14	1/10(水) ～15(月)	地域を彩る食物語 ～大学からの発信 こだわりのあるおいしいもの販売!!～	北海道北見市 (コミュニティプラザ パラボ)
15	1/19(金) ～21(日)	札幌モーターショー2018	北海道札幌市 (札幌ドーム)

■イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017

■日 時：7月20日（木）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

札幌市のアクセスサッポロを会場に「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017」が開催された。11 回目を迎えた本フェアは北海道内のものづくり産業を振興するために開催され、本学は1回目から共催機関として出展している。出展者数は約 220 社・団体で、その内大学・高専からの出展は 10 件だった。本学からは 2017 年 4 月に開設された複合型豪雨災害研究ユニットとオホーツク型先進農業工農連携研究ユニットについて展示・紹介を行った。また、学科改組により 2017 年度から開始した 2 学科 8 コースの教育体制についても紹介した。当日は社会連携推進センターの有田教授とオホーツク型先進農業工農連携研究ユニットから地域未来デザイン工学科の星野准教授が参加し、来場者へ研究内容についての説明などを行った。



来場者への説明を行う星野准教授

■イベント名：共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017
～IoT/AI 技術で切り拓く農業改革等への糸口～

■日 時：7月20日（木）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本フェアは、北海道大学が中心となり道内の学術・研究機関が企業向けに研究内容などを分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的として「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017」と同時開催している。本年度は「IoT/AI 技術で切り拓く農業改革等への糸口」をテーマに、関連する研究シーズを 10 名が紹介した。本学からは、地域未来デザイン工学科 鈴木育男准教授が取り組む「進化計算を用いたロボットの自動設計手法」、「群ロボットの自己位置推定とフォーメーション形成」の 2 つの研究について発表を行った。



発表を行う鈴木准教授

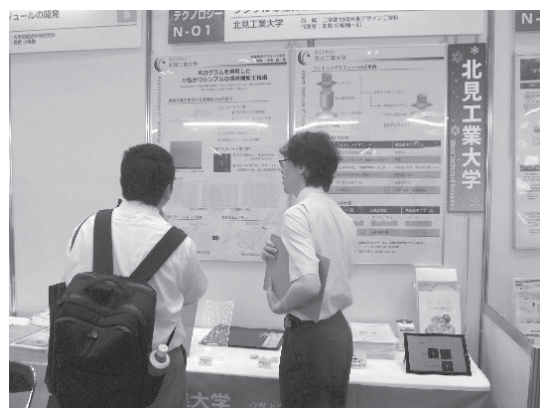
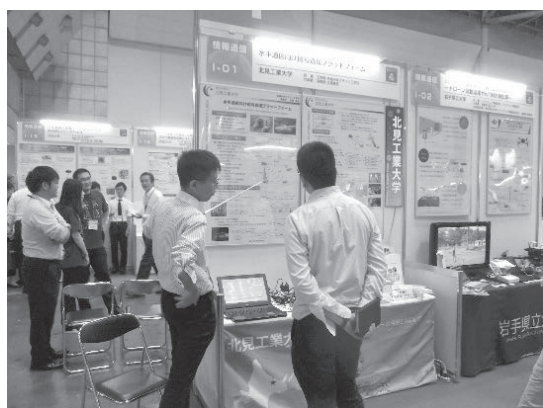
■イベント名：イノベーションジャパン 2017ー大学見本市ー

■日 時：8月31日（木）・9月1日（金）

■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本イベントは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントである。400 を超える大学・高専が参加し、研究展示やセミナーが行われた。本学からは、情報通信ゾーンに地域未来デザイン工学科 吉澤真吾准教授が取り組む「水中通信向け信号処理プラットフォーム」、ナノテクノロジーゾーンに地域未来デザイン工学科 杉坂純一郎助教が取り組む「ホログラムを利用した小型かつシンプルな極微細加工技術」の 2 つの研究成果について出展を行った。本学のブースには絶え間なく来場者があり、研究者による説明に熱心に耳を傾ける姿が見られた。本展示会は共

同研究等を目的として様々な業種から関心が寄せられているため、本学に置いても研究力向上に繋がる展示会として重視している。



説明を行う吉澤准教授（写真左）と杉坂助教（写真右）

■イベント名：Matching HUB Otaru 2017

■日 時：9月5日（火）

■会 場：グランドパーク小樽（北海道小樽市）

本イベントは、北陸先端科学技術大学院大学が金沢で取り組み始めた産学官金連携の促進を目指したイベントのノウハウを小樽商科大学が活用し、昨年度に初めて開催された。北海道での研究者と事業者のマッチングを促進し、共同研究及び大学間連携の活性化を図ることを目的に本学を含め48の企業・団体が参加した。本学からは、地域未来デザイン工学科 榎井 文人准教授による「地域おこしの情報科学～観光・カーリング」と、地域マネジメント工学コースの紹介を行った。会場では3分間のミニセミナーも行われ、多くの来場者の関心を集めた。イベント終了後の出展者交流会では出展者同士が情報交換などを行い、懇親を深めた。



説明を行う榎井准教授（写真左）と地域マネジメント工学コース紹介ブース（写真右）

■イベント名：北洋銀行・帯広信用金庫 インフォメーションバザール in Tokyo 2017

■日 時：9月7日（木）・8日（金）

■会 場：池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都豊島区）

本イベントは北海道の加工食品や農産物等を首都圏に紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を目指す実践的な商談会である。商品開発にむけたニーズ収集、首都圏バイヤーとのネットワーク構築などを目的に開催されている。本学は工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の成果発表の場として参加しており、受講生は今後の商品化へと繋がる情

報を得るために、自らが開発した試作品（大豆チップス、ぶりの燻製等）の試食アンケートを行った。本事業の受講生の所属する企業の出展や、応援団として北見市、北見観光協会、商工会議所等の団体も参加し、産学官の連携で地域と地域商品をPRした。本イベントは、受講生にとって自らが開発した商品の販売ルートの開拓や販路の拡大を目指すだけでなく、新たな商品開発に向けた情報共有とネットワーク構築に向けての価値ある場となった。



本学の展示ブース

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2017

■日 時：10月4日（水）～6日（金）

■会場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本フェアは全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催している。本学は平成19年度より継続して出展している。本年度は、地球環境工学科 小針良仁准教授の「北海道オホーツク地域での工学による植物資源の生産性向上や高品質化などの一次産業支援」と本学が平成18年度から実施している「工農教育事業」について紹介を行った。5日には小針助教によるプレゼンテーションも行われ、来場者は熱心に耳を傾けていた。出展後には、研究に関する問い合わせもあり、研究の発展が期待できる内容となった。本イベントへの参加は、地域の農林水産業の支援・発展に工学的な視点から貢献する本学の取組を知っていただく貴重な場となった。



本学ブースの様子（写真左）とプレゼンテーションを行う小針助教（写真右）

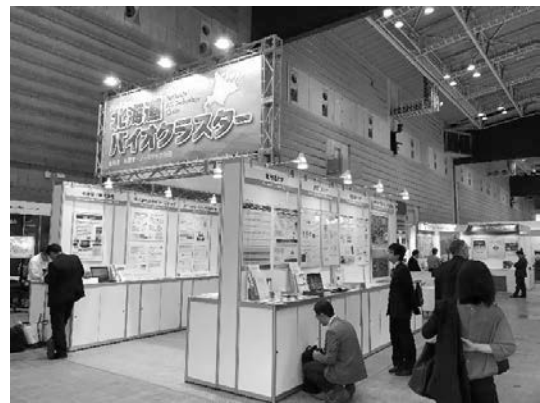
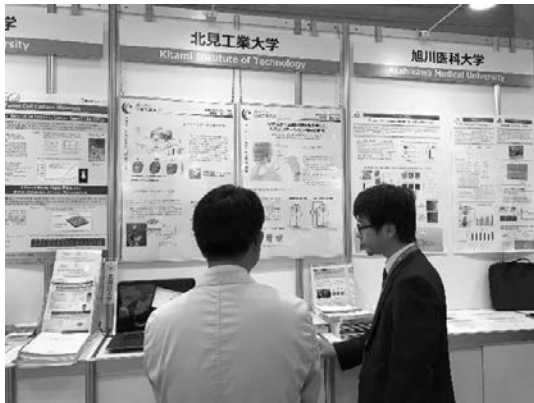
■イベント名：BioJapan 2017

■日 時：10月11日（水）～13日（金）

■会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントである。国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加し、同時開催の再生医療Japan2017と併せて来場者は1万5千人にのぼった。北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に本学も出展し、地域未来デザイン工学科 橋本泰成准教授の「リアルタイム脳波解析を応用したリハビリテーション機器の開発」について紹介を行った。実際にシステムを用いた説明は、医療関係者やヘルスケアビジ

ネスの関係者から注目を集めた。本学では医工連携をテーマに研究を行っている研究者もあり、バイオメディカル・ヘルスケア技術に関する研究を紹介する貴重な機会となった。



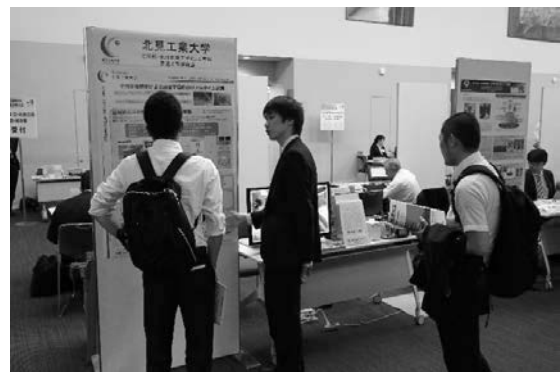
説明を行う橋本准教授（写真左）と北海道バイオクラスターブース（写真右）

■イベント名：公益社団法人自動車技術会 2017 年秋季大会 産学ポスターセッション

■日 時：10 月 11 日（水）～13 日（金）

■会 場：グランキューブ大阪（大阪府大阪市）

本イベントは自動車技術会秋季大会のプログラムのひとつで、自動車技術に関する研究成果について全国から 24 の大学・高専がポスター発表を行った。本学は、技術広報の一環として昨年度から本ポスターセッションに参加している。本年度は、地域未来デザイン工学科川村彰教授、富山和也助教（現准教授）が取り組む、「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイム計測技術」について紹介した。会場では研究に取り組む学生 1 名も参加し、動画を用いて実験の様子を紹介するなど来場者の目を引く展示で研究内容を説明した。他大学や自動車関係の業種の方との情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがるなど、研究の発展に有意義な機会となった。



会場の様子（写真左）と説明を行う学生（写真右）

■イベント名：メッセナゴヤ 2017

■日 時：11 月 8 日（水）～11 日（土）

■会 場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

本イベントは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で、1400 を超える企業・団体が出展している。北海道では、中京圏市場に対し道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的

として北海道ブースを設けており、20の企業・団体と本学を含む4つの大学が出展した。本学は、地域未来デザイン工学科川村彰教授と富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイム計測」について紹介を行った。愛知県は自動車関連企業が多く、本研究への関心が高かった。本学にとって中京圏でのイベント出展の機会は貴重であり、本学を全国にPRする上で重要なイベントとなっている。



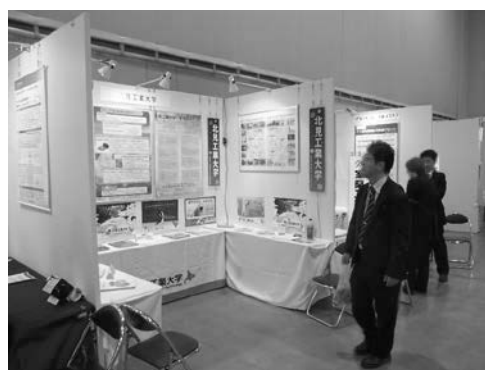
北海道ブースの様子

■イベント名：ビジネス EXPO「第31回北海道技術・ビジネス交流会」

■日 時：11月9日（木）・10日（金）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催しており、毎年350以上の企業・団体が参加する北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントである。本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、本年度設置された「複合型豪雨災害研究ユニット」と「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」の2つの研究プロジェクトについてパネル展示による紹介を行った。イベント全体の来場者数が過去最大となった今回、本学ブースに置いても例年の1.5倍以上の来場者が訪れた。また、札幌均衡の学生も見学を訪れ、入試案内なども行った。本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れ、大学と企業のつながりを深めるためにも重要な機会となっている。



本学の展示ブース

■イベント名：JST 新技術説明会

■日 時：ライフサイエンス系 11月16日（木）、ものづくり系 12月7日（木）

■会 場：JST 東京本部別館（東京都千代田区）

本説明会は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向け、大学や公的研究機関等の研究者が研究成果について説明し、実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る目的で開催している。北海道地域新技術説明会は、JSTと北海道大学 産学・地域協働推進機構が主催し、本学も後援機関として参画している。11月16日実施の「ライフサイエンス系」の説明会には、地球環境工学科 齋藤徹教授が参加し、「洗剤で水を洗う？界面分離設計による薬物含有排水浄化」と題して研究の成果を説明した。12月7日実施の「ものづくり系」の説明会には、地球環境工学科 大津直史准教授（現教授）による「超弾性NiTi合金にNiを含まない表層を常温形成できる表面処理」と地域未来デザイン工学科 杉坂純一郎助教による「準結晶ホログラムを用いた微細加工装置の簡素化とさらなる高精度化」についての研究発表が行われた。両日とも、プレゼンテーションの後には研究の成果に興味を持つ企業の方々との個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われた。毎年開催している北海道地域新技術説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成の機会であり、また今後の研究・産学官連携の発展に向



発表を行う齋藤教授

けた有意義な広報・情報交換の機会にもなっている。



発表を行う大津准教授（写真左）と杉坂助教（写真右）

■イベント名：2017 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido -北海道の食と農の明日へ-

■日 時：11月17日（金）・18日（土）

■会 場：サッポロファクトリー（北海道札幌市）

本フェアは、同年10月に東京で行われた「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけで開催され、食や農業に関する約30の企業・団体が参加した。今回は本年度設置された「オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット」と平成18年度から継続している「工農教育事業」について紹介を行った。共同出展した北見市雇用創造協議会は、工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の受講生が開発に携わった「ぶりの燻製」と「大豆ミート」の試食提供を行い、多くの来場者の関心を集めた。本学ブースではこれら商品に関するアンケートを実施するなど、今後の商品開発において有益な情報を得る場ともなった。会場には本学の卒業生も来場し、今回紹介した取り組みをはじめ、最近の大学の状況を知っていただく機会となった。



本学の展示ブース

■イベント名：地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりのあるおいしいものの販売!!～

■日 時：1月10日（水）～15日（月）

■会 場：コミュニティプラザパラポまちきた大通ビル（北海道北見市）

本イベントは北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で、例年北見市で行われる高知物産展と同時開催されている。9回目となる今回は長崎大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、帯広畜産大学と本学の5大学とオホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加し、研究成果発表や開発商品の試食、ブースプレゼンテーションを行った。初日には日本赤十字北海道大学 災害対策教育センター長の根本昌宏教授による「食の宝庫北海道が放つ『北の災害食レシピ』」の講演と情報交換会が行われ、大学間の交流を深める場となった。本学は農業地帯にある工業大学という利点を活かし取り組んでいる、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工農教育事業の成果を報告した。本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただき、また参加大学・機関にとっても、「食と健康」・「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となっている。



パネル展示(写真左)とプレゼンテーションの様子(写真右)

■イベント名：札幌モーターショー2018

■日 時：1月19日(金)～21日(日)

■会 場：札幌ドーム(北海道札幌市)

本イベントは2012年から隔年で開催されている。北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部は、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的に、札幌モーターショー内に北海道自動車産業ゾーンを設けている。北海道自動車産業ゾーンには、大学機関からは北海道大学と本学、そして公的試験研究機関、北海道内企業の全18ブースが出展し、各自が取り組む自動車関連技術が紹介された。本学は、地域未来デザイン工学科 川村武准教授が取り組む「暴風雪悪視界下で機能するRFID車両ナビゲーションシステム」について川村准教授と学生1名が説明を行った。本技術はイベント終了後メディアに取り上げられるなど、注目の高さが伺えた。多様な方が来場する本イベントは、技術広報だけでなく大学広報としても価値の高い場となっている。



来場者への説明を行う川村准教授

北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム 『オホーツク地域における金融機関と大学機関との連携の可能性』を開催

3月8日（木）本学において、北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウムを開催した。学金連携活動の強化・拡大による北海道地域の振興を目指し、オホーツク地域における学金連携について議論を深めることが目的であった。本シンポジウムには、共催機関である特定非営利活動法人産学連携学会学金連携システム研究会及び北海道支部、地域の金融機関、産学官連携活動従事者を含めた41人の参加があった。

シンポジウムは第1部「学金連携の取り組み事例」、第2部「パネルディスカッション、『オホーツク地域における学金連携の姿について』」の2部構成で開催した。

第1部では、学金連携の取り組み事例として、大学機関からは東京海洋大学産学・地域連携推進機構 川名優孝准教授、秋田大学産学連携推進機構 伊藤慎一准教授・統括 URA より、金融機関と大学との教育面での連携や地域への大学の研究成果の活用など、地域活性化に向けた金融機関の存在は大きいことについて話があった。金融機関からは北洋銀行地域産業支援部 吉岡孝則副部長より、金融機関としての支援体制や、金融機関職員の技術の目利き人材としての育成の取り組みなどについて話があった。



川名氏（東京海洋大学）

伊藤氏（秋田大学）

吉岡氏（北洋銀行）

第1部学金連携の取り組み事例

第2部のパネルディスカッションでは、第1部で講演をいただいた講師3人がパネリストとして参加し、本学社会連携推進センター 内島典子准教授がコーディネータを務めた。主な議論の焦点として、①地域振興に向けて学金連携がもたらすもの・学金連携により得られるもの、②学金連携を進めていくうえで危惧すること・意識しなければならないこと、について討議した。地域には首都圏とは異なり相手の顔が見えることのメリットが大きいこと。金融機関と大学がお互いに不得手なところを補いながら連携することにより、地域振興の実現が可能となっていくのではないかと、ということ。またそのためには、金融機関と大学は相互に半歩近づく意識を持つことが大切である、などの意見が出された。将来の地域振興に向け、金融機関および大学はそれぞれの中長期的な視点で真のパートナーづくりを行い、持続可能な地域づくりを進めることが重要であることが示された。

開催後、参加者からは、「学金連携に関して認識を深めることできた。」「学金連携／地域振興について考える機会となった。」などの声が聞かれた。また、「大学、金融機関双方が互いの視点を持つことにより、幅広い切り口で考えることが大切であると感じた。」との所感や、「大学が金融機関と企業の架け橋として機能することにより、経営分析情報、金融制度アイデアなどがたくさん出せるようになることを期待する。」との大学が果たす役割への期待も寄せられた。



第2部 パネルディスカッション



シンポジウム会場

～北見工業大学と金融機関との連携強化に向けたシンポジウム～

オホーツク地域における 金融機関と大学機関との 連携の可能性

2018年
3月8日(木)

時間 14:00～18:30
場所 北見工業大学 (北見市公園町165番地)
第1総合研究棟2階 多目的講義室

開催趣旨
北見工業大学は金融機関との連携(学金連携)を強化し、オホーツク地域、並びには北海道地域の振興に向けた活動を更に推進していきます。
本シンポジウムでは、学金連携の先進事例を通じ、北見工業大学と金融機関との連携強化に向けた取り組みについて議論を深めます。

プログラム概要

第1部 講演『学金連携の取り組み事例』 14:00～15:25
第1総合研究棟2階 多目的講義室

講演内容
講演1「金融機関の気づきと行動力が地域を変える」 川名 優孝 氏 (東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 准教授)
講演2「金融機関との連携による中小企業支援」 伊藤 慎一 氏 (秋田大学 産学連携推進機構 准教授/統括URA)
講演3「北海道における学金連携の事例紹介」 吉岡 孝則 氏 (北洋銀行 地域産業支援部 副部長)
講演4「金融仲介と産学連携～山形大学の挑戦～」 小野 浩幸 氏 (山形大学 産学官連携推進本部 副本部長/教授)

第2部 パネルディスカッション『オホーツク地域における学金連携の姿について』 15:30～16:45
第1総合研究棟2階 多目的講義室

パネリスト
川名 優孝 氏 (東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 准教授)
伊藤 慎一 氏 (秋田大学 産学連携推進機構 准教授/統括URA)
吉岡 孝則 氏 (北洋銀行 地域産業支援部 副部長)
小野 浩幸 氏 (山形大学 産学官連携推進本部 副本部長/教授)

コーディネータ
内島 典子 (北見工業大学 社会連携推進センター 准教授)

第3部 情報交換会 17:00～18:30
北見工業大学生館2階 KIT Gallery

主催：北見工業大学 ●共催：産学連携学会学金連携システム研究会/産学連携学会北海道支部

問合せ・申込先 北見工業大学 研究協力課地域連携担当
〒090-8507 北海道北見市公園町165番地
TEL:0157-26-9158/FAX:0157-26-9155
E-mail: kenkyu09@desk.kitami-it.ac.jp

申込方法
表面の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにて、3月2日(金)までにお申し込みください。お申し込みは無料です。

開催案内

【プログラム】

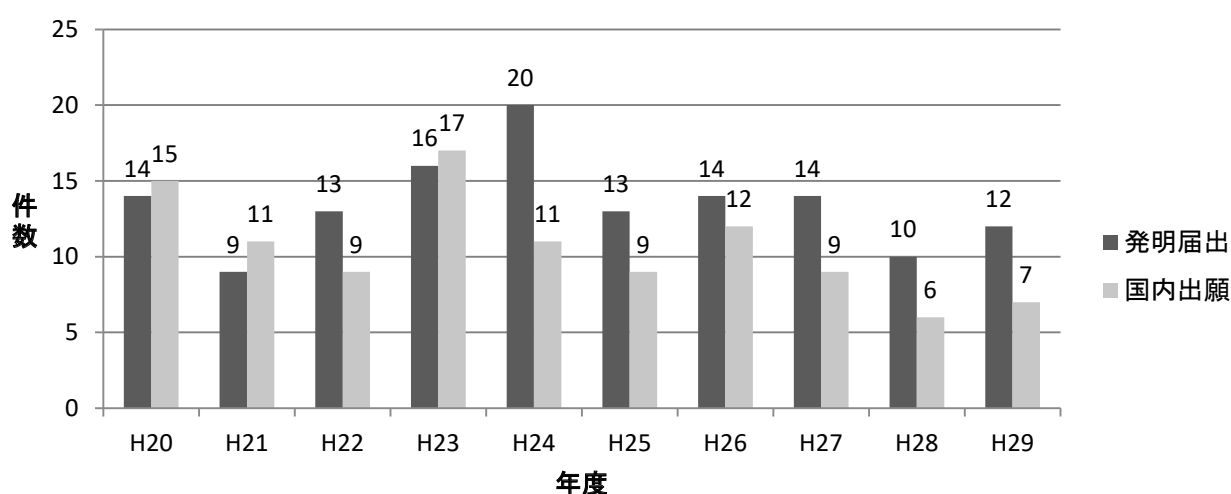
●14時00分～16時50分

1. 開催挨拶 北見工業大学・副学長
社会連携推進機構 機構長 川村 彰
 2. 学金連携の取り組み事例
講演1「金融機関の気づきと行動力が地域を変える」
川名 優孝 氏 (東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 准教授)
講演2「金融機関との連携による中小企業支援」
伊藤 慎一 氏 (秋田大学 産学連携推進機構 准教授/統括URA)
講演3「北海道における学金連携の事例紹介」
吉岡 孝則 氏 (北洋銀行 地域産業支援部 副部長)
講演4「金融仲介と産学連携～山形大学の挑戦～」
川名 優孝 氏 (東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 准教授)
(小野 浩幸 氏 (山形大学 産学官連携推進本部 副本部長/教授) 代理)
 3. パネルディスカッション
テーマ：「オホーツク地域における学金連携の姿について」
パネリスト：
川名 優孝 氏、伊藤 慎一 氏、吉岡 孝則 氏、小野 浩幸 氏
コーディネータ：
内島 典子 (北見工業大学 社会連携推進センター 准教授)
 4. 閉会挨拶 産学連携学会 学金連携システム研究会
代表 伊藤 慎一 氏
- 17時00分～18時30分 情報交換会

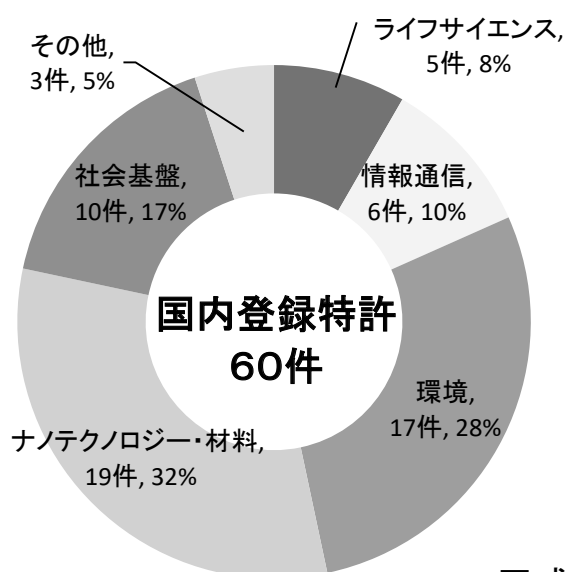
5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度からは研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数は 10 件程度で推移しており、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行っており、近年は 60 件程度で推移している。その技術分野は、ライフサイエンスをはじめ、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料など広範に及んでいる。

発明届出・国内特許出願件数 年度別推移



国内登録特許件数 分野別累計



平成30年3月31日現在

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」第12期の実施

【(旧)新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン】

平成18年度より5年間続けてきました「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、平成23年度においては北見市の協力により「産学官連携第6次産業人材育成事業」として、平成24年度はオホーツク総合振興局「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」により継続することができ、平成25年度においては北見市の協力により「地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業」として実施できました。また、これまで同様国立大学法人がこの種の事業に直接採択いただけないため、北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して運営するという形式で進めました。また、平成26年度からは北見市雇用創造協議会との連携の中で運営してきている。

(1) 開発課題概要

①大豆を用いた商品開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めている地元素材の活用を目指した商品開発の一環として、地元産大豆を活用したミートボール風の商品開発を行った。賞味期限を長くすることでの有効性を考えた商品化を行った。

②鰯を活用した新商品の開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題。最近オホーツク海でも捕獲されてきている鰯に着目し、地域としては食文化のない鰯の商品化を目指した。地元で魚類加工品を製造しているメーカーとの共同開発によるブリスモークの開発を行った。

③たまねぎ外皮を活用した製品開発

これまで開発してきた地場産タマネギの外皮を活用したお茶、化粧品、酢等の高付加価値化をすすめる商品開発を行った。

④農産物のキノコ発酵による高付加価値化の検討(受講生)

本研究は加工副産物であるおからやフスマをきのこで発酵させることによって新たな機能性成分の付与を目的に行う。機能性の指標として、キノコ発酵農産物の総ポリフェノール含量測定、抗酸化活性測定を行い、検討する。

⑤北見産大豆と食用キノコを利用した機能性食品の開発(受講生)

機能性食品が近年注目されている生活習慣病等を食品によって改善する可能性に着目し、その中でも食用キノコを用いた発酵により北見産ダイズであるゆきぴりかの機能性成分をさらに増やすための研究を行う。

⑥和薄荷蒸留残渣抽出物のアレルギー抑制作用

水蒸気蒸留で大量に生じる蒸留残渣の有効活用と、近年、アレルギー性疾患の罹患者が増加傾向にあることから、和種薄荷蒸留残渣抽出物のアレルギー抑制作用を培養細胞を用いて明らかにする。

(2) 地域の販売イベント等

①インフォメーションバザール in Tokyo 2017 (東京都豊島区)

日 時：平成 29 年 9 月 7 日 (木) 10:00~17:00

平成 29 年 9 月 8 日 (金) 10:00~16:00

会 場：池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 4 階

主 催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2017」へ参加した。本イベントは、「南の逸品商談会 in Tokyo 2017」と同時開催されたものであり、北海道及び南九州地域の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生 2 名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品の PR なども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

②アグリビジネス創出フェア2017 (東京都江東区)

日 時：平成 29 年 10 月 4 日 (水) ~6 日 (金) 10:00~17:00

会 場：東京ビッグサイト

主 催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア 2017」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。

ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。

本イベントには、来場者に商品 PR を行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については試食をしなかったため、バイヤーに製品を配り受講生に内容を知らせた。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

③第 2 回オホーツク農大マルシェ (北海道網走市)

日 時：平成 29 年 10 月 7 日 (土) ~8 日 (日) 10:00~15:00

会 場：東京農業大学オホーツクキャンパス

主 催：東京農業大学

東京農業大学で毎年開催されている「収穫祭」と連携し実施されたマルシェに参加した。本イベントでは、主に東京農大オホーツクキャンパスで行われている人材育成事業の市場調査も含めて行われており、あわせて食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

本イベントにおいても、修了生が 1 名と受講生 1 名が販売実習を行った。

④輝農祭～太陽の力、大地の力、届け大空に！～（北海道大空町）

日 時：平成 29 年 10 月 15 日（日）10：00～15：00

会 場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主 催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で15回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちゃの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験の体験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、受講生3名が屋外販売を含め販売実習を行った。

⑤2017 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（北海道札幌市）

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）～18 日（土）10：00～17：00

会 場：サッポロファクトリー

主 催：NPO 法人グリーンテクノバンク、農林水産省

本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業家チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。

農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。

本イベントへは、受講生2名の試作品（ブリのスモーク、大豆のミートボール等）ならびにこれまでの商品展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

⑥地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりあるおいしいもの販売!!～（北海道北見市）

日 時：平成 30 年 1 月 10 日（水）～15 日（月）9：00～18：00（最終日は 17：00 まで）

会 場：コミュニティプラザパラボ 5 階

主 催：北見市産学官連携推進協議会

共 催：北見工業大学

各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様にも周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。

人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。

本年度で9回目を迎えるイベントで、今回から会場を元に戻し5階催事場で開催できた。高知物産展との関係もあり、セミナーは会議室、販売実習は議会事務局の壁沿いで行うイベントとなった。これにより昨年度よりは、遙かに人の通行も増え良い実習となった。また、北見市の姉妹都市である高知市の産品、観光をPRする高知物産と同日程で開催した。



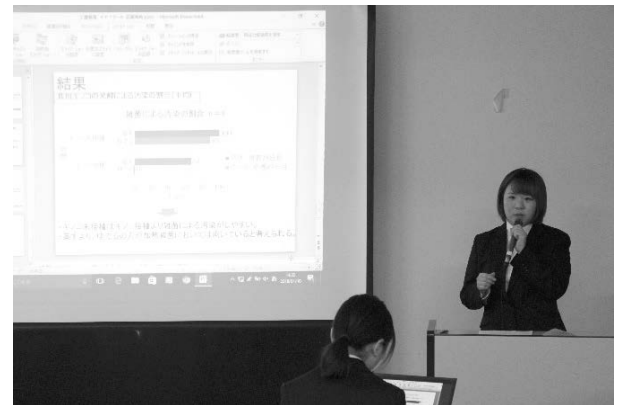
開会式（吉田会長挨拶）



来賓挨拶（北見市商工部長）



会場の様子



講演会の様子

(3) 講演会等

①北見工業大学・帯広畜産大学・東京農業大学 3大学合同セミナーin帯広（北海道帯広市）

日時：平成30年1月20日（土）13：00～17：00

平成30年1月21日（日）9：00～14：30

会場：帯広畜産大学 地域連携推進センター

北見工業大学、東京農業大学、帯広畜産大学「地域再生人材創出拠点の形成」事業採択3大学の人材育成事業の受講生・修了生が新たな知識習得やプレゼンテーションスキルのスキルアップを図り、情報交換を通じて大学間や受講生・修了生同士の交流を深めることを目的として開催された。

②講演会『これならできる！地産特産 奥菌流いきいき活用のススメ』（北海道北見市）

日時：平成30年3月6日（水）14：00～15：30

会場：ホテル黒部

主催：北見市技能普及実行委員会

講師：奥菌壽子（家庭料理研究家 ホリプロ）

本講演は、主婦が参考になる料理研究家 世代別1位で、朝日放送 「たけしのみんなの家庭の医学」料理レシピ制作、レギュラー、NHK「あさイチ」「きょうの料理」「ひるブラ」「シブ5時」「ひるまえほっと」等に出演している奥菌壽子さんを迎え、北見の地産特産品の上手な使い方について講演をいただいた。観光と食に関係する諸団体および大学関係者

の皆様を中心に集まっていただき、オホーツク圏の観光を含め「食」を中心とした産業振興へのきっかけづくりとした。

③北見市技能普及講演会「地元食材活用講演会」（北海道北見市）

日 時：平成30年3月28日（月）15：00～

会 場：北見工業大学 社会連携推進センター

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：大友真佐美

（FoodOffice まさみ 代表、合同会社びほろ笑顔プロジェクト商品開発室長）

本講演会は地元で特色ある食関連商品開発に意欲的に取り組む大友真佐美さんを招いて、現在行っている商品開発や技術普及などに係る考え方やアイデアの出し方等についての講演会を実施し、20名程度参加いただき開催した。地場産品の高付加価値化による取り組みの強化を図るとともに、これをきっかけに改めて当地域の食材のおいしさを知り「食」の技能の普及と推進により、地域活性化を図る目的で開催された講演会であった。

(4) 今後について

本事業を通して各地で6次産業化の動きが活発化しており、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の思いのベクトルがそろいつつある事を再確認できました。産学官連携による産業振興では、人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることが、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていますので、今後さらなる強固な協力体制により継続できるよう努力していきます。

7) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	第1回社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日 時	平成29年10月26日(木) 14:00~16:00
	審議事項	1 第6次産業化への取組み
		2 地域防災への対策と課題
		3 その他

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会	
開催状況	日 時	平成29年4月24日(月) 14:30~16:05
	審議事項	1 報告第1号 平成28年度事業報告
		2 報告第2号 平成28年度決算報告
		3 報告第3号 平成28年度監査報告
		4 議案第1号 平成29年度事業計画(案)
		5 議案第2号 平成29年度予算(案)
	6 その他	

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日 時	平成29年4月27日(木) 14:00~16:00
	審議事項	1 報告第1号 平成28年度事業報告について
		2 報告第2号 平成28年度決算報告について
		3 報告第3号 平成28年度監査報告について
		4 議案第1号 平成29年度事業計画(案)について
		5 議案第2号 平成29年度予算(案)について
	6 その他	

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年4月10日(月) 10:00~11:15
	審議事項	1 社会連携推進センター推進協議会平成29年度総会について
		2 各種出展イベントについて
		3 その他
	報告事項	1 平成28年度第12回教育研究評議会について
2 その他		

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年5月8日(月) 10:00~11:30
	審議事項	1 平成28年度決算および平成29年度予算(案)について
		2 技術広報・出展イベントについて
		3 平成29年度の工農教育について
		4 その他
	報告事項	1 平成28年度外部資金受入状況について
		2 平成29年度第1回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年6月5日(月) 10:00~11:30
	審議事項	1 平成29年度市町村訪問について
		2 平成28年度版CRC年報について
		3 その他
	報告事項	1 技術広報イベントの進捗状況について
		2 平成29年度第2回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年7月3日(月) 10:00～11:30
	審議事項	1 平成29年度市町村訪問について
		2 その他
	報告事項	1 各出展イベントの進捗状況について
		2 平成29年度第3回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第5回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年8月7日(月) 9:40～11:00
	審議事項	1 平成29年度市町村訪問について
		2 第29回国立大学法人共同研究センター長等会議について
		3 その他
	報告事項	1 北洋銀行ものづくりテクノフェア2017について
		2 平成29年度第4回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第6回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年9月14日(木) 10:00～11:25
	審議事項	1 平成29年度市町村訪問について
		2 平成29年度国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員の合同会議について
		3 その他
	報告事項	1 「オホーツク地域創生研究パークを利用した科学塾」について
		2 各イベントについて
3 その他		

会議名称	第7回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年10月13日(金) 10:30~12:20
	審議事項	1 平成29年度国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議について
		2 セレナについて
		3 その他
	報告事項	1 平成29年度市町村訪問について(北見市以外)
		2 第29回国立大学法人共同研究センター長等会議について
		3 「オホーツク地域創生研究パークを利用した科学塾」について
		4 各イベントについて
		5 第5回教育研究評議会について
6 その他		

会議名称	第8回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年11月13日(月) 15:00~16:30
	審議事項	1 平成30年度客員教授について
		2 平成29年度市町村訪問・合同会議で出された課題・意見への今後の対応について
		3 江原大学校との連携協定・訪問について
		4 その他
	報告事項	1 公用車の決定について
		2 各イベントについて
		3 第6回教育研究評議会について
		4 その他

会議名称	第9回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年12月4日(月) 15:00~16:40
	審議事項	1 江原大学校の連携協定・訪問について
		2 「地域を彩る食物語」について
		3 「産学連携学会と金融機関の連携シンポジウム」について
		4 平成30年度産学官連携事業について
		5 その他
	報告事項	1 各種イベントについて
		2 平成29年度第7回・第8回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第10回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成30年1月12日(金) 13:30~14:35
	審議事項	1 その他
	報告事項	1 各種イベントについて
		2 平成29年度第9回教育研究評議会について
		3 その他

会議名称	第11回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成30年2月6日(火) 15:00~16:10
		1 「北見工業大学の金融機関との連携強化に向けたシンポジウム」について
		2 平成29年度予算残額の使途について
		3 その他
	報告事項	1 各種イベント等について
		2 北見青年会議所主催「JOY 冬アドベンチャー」について
		3 第10回教育研究評議会について
		4 その他

○	学 内
◆	学 外

8) 平成 29 年度 活 動 日 誌

- 4 / 10 (月) ○平成 29 年度第 1 回社会連携推進センター運営会議
- 4 / 20 (木) ◆農業クラウド事業推進会議
- 4 / 24 (月) ○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会平成 29 年度総会
- 4 / 26 (水) ◆第 1 回農観連携ビジネス創出推進協議会
- 4 / 27 (木) ◆北見市産学官連携推進協議会平成 29 年度総会
- 5 / 8 (月) ○平成 29 年度第 2 回社会連携推進センター運営会議
- 5 / 15 (月) ◆平成 29 年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 5 / 23 (火) ◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 5 / 25 (木) ◆平成 29 年度第 1 回北見市中小企業振興審議会
- 5 / 29 (月) ◆産業クラスター研究会オホーツク平成 29 年度定期総会
- 6 / 1 (木) ◆「サテライトオフィス北見」開所式
- 6 / 5 (月) ○平成 29 年度第 3 回社会連携推進センター運営会議
- 6 / 8 (木) ◆北見市雇用創造協議会運営委員会
- 6 / 9 (金) ◆北見市技能普及実行委員会
- 6 / 13 (火) ◆北見振興公社評議委員会
- 6 / 15 (木) ◆産学連携学会第 15 回大会【とちぎ大会】(栃木県宇都宮市)
- 6 / 20 (水) ◆仕愛会定期評議委員会
- 6 / 23 (金) ◆平成 29 年度定時評議員会【オホーツク財団】
- 7 / 3 (月) ○平成 29 年度第 4 回社会連携推進センター運営会議
- 7 / 13 (木) ◆科学技術振興に関する地域懇談会
- 7 / 14 (金) ◆第 64 回北見ぼんちまつり 舞踊パレード
- 7 / 20 (木) ◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017(北海道札幌市)
◆共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア(北海道札幌市)
- 7 / 27 (木) ◆JST 事業委員会 (宮城県仙台市)
- 8 / 1 (火) ◆再生可能エネルギーを中心とした道内先進事例の視察 (石狩市、札幌市、苫小牧市)
- 8 / 7 (月) ○平成 29 年度第 5 回社会連携推進センター運営会議
○平成 29 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式
- 8 / 31 (木) ◆イノベーション・ジャパン 2017 -大学見本市- (東京都江東区)
- 9 / 5 (火) ◆Matching HUB Otaru 2017 (北海道小樽市)
- 9 / 13 (水) ◆JST 事業委員会 (東京都千代田区)
- 9 / 14 (木) ○平成 29 年度第 6 回社会連携推進センター運営会議
- 9 / 19 (火) ◆市町村訪問 (訓子府町、置戸町、津別町)
- 9 / 20 (水) ◆JST 事業委員会 (東京都千代田区)
- 9 / 23 (土) ○オホーツク地域創生研究パークを利用した科学塾
- 9 / 25 (月) ◆市町村訪問 (大空町、小清水町、斜里町、雄武町、興部町、西興部村)
- 9 / 26 (火) ◆市町村訪問 (遠軽町、湧別町、佐呂間町、紋別市、滝上町)
- 9 / 28 (木) ◆第 29 回国立大学法人共同研究センター長等会議(秋田県秋田市)

- 10 / 2 (月) ◆市町村訪問 (網走市、清里町、美幌町)
- 10 / 4 (水) ◆アグリビジネス創出フェア 2017(東京都江東区)
- 10 / 10 (火) ◆北見市技能普及実行委員会平成 29 年度視察研修 (群馬県川場村)
- 10 / 11 (水) ◆BioJapan2017(神奈川県横浜市)
◆自動車技術会 2017 年秋季大会 産学ポスターセッション(大阪府大阪市)
- 10 / 13 (金) ○平成 29 年度第 7 回社会連携推進センター運営会議
- 10 / 25 (水) ◆市町村訪問 (北見市)
- 10 / 26 (木) ◆平成 29 年国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 11 / 1 (水) ◆平成 29 年度北海道コーディネータ・ネットワーク・フォーラム (北海道札幌市)
- 11 / 6 (月) ◆北見地域企業立地促進協議会
- 11 / 8 (水) ◆メッセナゴヤ 2017 (愛知県名古屋市)
- 11 / 9 (木) ◆第 31 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)(北海道札幌市)
- 11 / 11 (土) ◆「驚き！おもしろ科学実験 2017」 (北海道陸別町)
- 11 / 13 (月) ○平成 29 年度第 8 回社会連携推進センター運営会議
- 11 / 14 (火) ◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 11 / 16 (木) ◆JST 新技術説明会 (ライフサイエンス系) (東京都千代田区)
- 11 / 16 (木) ◆平成 29 年度全道産学官ネットワーク推進協議会 (北海道函館市)
- 11 / 17 (金) ◆2017 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(北海道札幌市)
- 11 / 25 (土) ◆SCAN 第 8 回合同研究発表会 (北海道札幌市)
- 11 / 28 (火) ◆北見市中小企業振興審議会
- 11 / 29 (水) ◆産学連携学会関西中四国支部 第 9 回研究・事例発表会(徳島県徳島市)
- 12 / 4 (月) ○平成 29 年度第 9 回社会連携推進センター運営会議
- 12 / 7 (木) ◆JST 新技術説明会 (ものづくり系) (東京都千代田区)
- 1 / 10 (水) ◆地域を彩る食物語
- 1 / 12 (金) ○平成 29 年度第 10 回社会連携推進センター運営会議
○第 3 回地球環境工学科研究交流会
- 1 / 19 (金) ◆札幌モーターショー2018 (北海道札幌市)
- 1 / 20 (土) ◆3 大学合同セミナー in 帯広畜産大学 (北海道帯広市)
- 1 / 26 (金) ◆北見東ロータリークラブ例会
- 1 / 31 (水) ◆北見商工会議所サービス業部会 新春講話
- 2 / 2 (金) ◆JST 産連事業広聴会 (宮城県仙台市)
- 2 / 6 (火) ○平成 29 年度第 11 回社会連携推進センター運営会議
- 3 / 1 (木) ○北見工業大学オホーツク型先進農業工農連携研究ユニット地域交流会
「オホーツク地域における農業への新技術的用および工農連携の促進に向けて」
- 3 / 5 (月) ○平成 29 年度第 12 回社会連携推進センター運営会議
- 3 / 6 (火) ◆北見市技能普及講演会「これなら出来る！地産特産 奥菌流 いきいき活用のススメ」
- 3 / 8 (木) ○北見工業大学の金融機関との連携強化に向けたシンポジウム
- 3 / 10 (土) ◆オホーツク医学大会
- 3 / 15 (木) ◆平成 29 年度「イノベーション人材育成委員会」 (東京都千代田区)

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程 ■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学研究推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規
7. 北見工業大学社会連携推進センター運営会議内規

規程の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

<http://www.kitami-it.ac.jp/>

平成 年 月 日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技術相談申込書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター（旧地域共同研究センター）

TEL：0157-26-4161

FAX：0157-26-4171

E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

国立大学法人北見工業大学 社会連携推進センター年報第16号 平成29年度

発行日 平成30年9月

発行者 国立大学法人北見工業大学 学術推進機構 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

URL : <http://www.crc.kitami-it.ac.jp/>



国立大学法人 北見工業大学 学術推進機構 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町 603-2 TEL : 0157-26-4161 FAX : 0157-26-4171 E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp